

スーパーFJ 鈴鹿シリーズ 第1戦
接触をチャンスに変えた大類選手の開幕戦

- 3月4日(金) 日本全国各サーキットの中でいち早く開幕をむかえる鈴鹿シリーズでARTの2011年シーズンは始まった。3月4日(金)この日は全走行スケジュールは4本あり、全て走行する予定で鈴鹿サーキットへ入った。
- 1本目、午前10:10 気温7℃ 湿度41% 路温12℃ほど天気は晴れているものの風によって雪が朝から舞い散っていた。以前の走行よりも、車両のセッティングを若干変更し、サーキットへ持込んだが大きく状況は変りはしなかった。この時の大類選手のベストは、1'28'30各選手にタイムは1'23秒後半から24秒であった。
- 2本目、午前11:40 気温10℃ 湿度36% 路温14℃気温、路温ともに上昇したものの天候に変りはなかった。タイヤ、マシンを温め、タイムを上げていっていたが、走行中ごろにドライブシャフトが折損するトラブルがおき、走行中断となってしまった。タイムの伸びずに、各選手は少しずつではあるがタイムが上がってきていた。
- 3本目、午後2:45 気温10℃ 湿度28% 路温21℃となっていた。1本目、2本目の走行をコーススタンドでチェックしていた為、見るからにグリップしていないようだった。コースドライヤーで、走行距離も増えていたため、グリップダウンは避けられないようだった。その中でも最も気になる部分をコメントをもとにセッティングを少し変更をした。フィーリング、タイムともに良くなりベストは1'27'72で走行を終了した。他選手では、1'23'84であった。その時点で約3.9秒ほどの差であった。
- 4本目、午後4:20 気温6℃ 湿度41% 路温21℃夕方という事もあり、気温、路温ともに低下していた為、タイムは期待できないと思っていた。ラインのとり方、車両の動かし方などをアドバイスをしていき、そのせいなのか、タイムも少し上がってきていた。
- 3月5日(土) 1本目、午前10:20 気温8℃ 湿度43% 路温17℃ 天候は以前と違い、日光がとても暖かく感じる天気となった。この日の朝一番から練習ではあるがニュータイヤを使い走行開始となった。全体的なグリップが上がり、走らせ方など少し修正をしながらの走行であったが前日のベストをあっさり更新し1'24'86となっていた。この時の全体ベストでは1'22'50であった。約2.3秒差になっていた。ドライバーもより良いタイヤで走行をしなければセッティングも前には進まない事を痛感していた。
- 2本目、午後1:30 気温12℃ 湿度31% 路温19℃での走行開始となった。グリップが高くなっていたので、車両の走らせ方などを再度チェックしセッティングも少しだけ変更し走行に望んだ。他選手もタイムを上げてきていたが、大類選手も約0.5秒ほど縮めていたが、タイム差はつまらないものとなった。
- 3本目、午後3:30 気温18℃ 湿度21% 路温30℃となっていた。金曜日、土曜日と、両日ともに天候もよく、コースもドライ続きであった。翌日のレースに向けて最後のセッションとなった。2本目に出したベストタイムと同タイムでの周回を繰り返していた。しかしそれ以上はタイムは伸びずにいた。他選手もタイムは伸びてはなかった。
- 3月6日(日) 午前10:40 気温13℃ 湿度27% 路温22℃で予選はスタートとなった。前日の走行より、頭の中を整理していたため、ニュータイヤでアタックのいい方向に向かっていった。どの選手も予選の後半にタイム更新をしていった。大類選手も同じくアタックを開始する。ポジションを探すのに苦労していたようだった。予選タイムは、1'24'139となりベスト更新をしていたが、ポジション15ポールポジションタイムは1'21'907 cコースレコードを塗り替えるものとなった。予選後大類選手は、気負いすぎて走行をまとめるのに苦戦したと話していました。
- 午後3:40 気温14℃ 湿度36% 路温18℃天候は予報通り雲が多くなってきた空の下での決勝のスタートだった。スタート直後に他車どうしの接触をうまくすり抜け、4ポジションアップの11番手まで上がっていた。しかし、ポツポツとコースには雨粒が落ち始めてきていた。そのため、ペースが少し落ち、ポジションも1つ落とし12位でのチェッカーとなった。

中村監督コメント 今後順位を上げ、入賞めざしていきます。
ご声援御願いたします。

 Nankai Plan Co., Ltd.



鈴木会計
埼玉・川口
<http://www.tcnf.com/sds>



CAR No.35

Beyond

スーパーFJ
アルビレックス・レーシング・チーム
PRESS RELEASE
2011/3/6

Albirex-RT

スーパーFJ 鈴鹿シリーズ 第1戦 今年レース初参戦となる佐藤選手の開幕戦

- 3月4日(金) 大類選手とは違い、今年レース初参戦となる佐藤選手のレースウィークは始まった。この日の全走行スケジュールは4本あり、大類選手と同じく全て走行する予定でいた。
- 1本目、午前10:10 気温7℃ 湿度41% 路温12℃ほど天気は晴れているものの風によって雪が朝から舞い散っていた。以前の走行よりも、車両のセットを若干変更し、サーキットへ持込んだが大きく状況は変りはしなかった。この時の佐藤選手のベストは、1'28'33であった。チームメイトの大類選手とほぼ変わらないタイムで走行していた。各選手にタイムは1'23秒後半から24秒であった。
- 2本目、午前11:40 気温10℃ 湿度36% 路温14℃気温、路温ともに上昇したものの天候に変りはなかった。まだ佐藤選手も、タイム的にも安定はしておらず、毎ラップごとに数多くのことにチャレンジしているようにコース再度からも見えていた。1本目よりも約0.2秒ほどラップタイムを落としていたが、今はそれよりも走行距離を伸ばすことに力を入れたと考えていた。
- 3本目、午後2:45 気温10℃ 湿度28% 路温21℃となっていた。この時大類選手と同じくセットを変更し、走行を始めた。フィーリングは変化したものの、タイムはほぼ変わらずに走行を終了した。
- 4本目、午後4:20 気温6℃ 湿度41% 路温21℃夕方という事もあり、気温、路温ともに低下していた為、タイムは期待できないと思っていた。走行開始にコースオフをしてしまい、走行時間を少なくしてしまった。幸い車両にもダメージはなく新にチャレンジした結果でのコースオフなのでよい傾向であると思った。
- 3月5日(土) 1本目、午前10:20 気温8℃ 湿度43% 路温17℃ 天候は以前と違い、日光がとても暖かく感じる天気となった。この日は朝一番からニュータイヤを使っでの走行となった。佐藤選手はもちろんニュータイヤを使うのが初めてとなったが大きな戸惑いもなくすんなりと受け入れられてと思った。佐藤選手もグリップの落ちたユーズドタイヤとニュータイヤではそれがなくなったように思える話し、衝撃を受けていた。ベストが1'25'09全体ベストが1'22'50ほどでタイム差は約2.5秒ほどであった。
- 2本目、午後1:30 気温12℃ 湿度31% 路温19℃での走行開始となった。グリップが高くなっていたので、車両の走らせ方などを再度チェックしセットも少しだけ変更し走行に望んだ。走行に関してのアドバイスやセット変更がいい方向へ向かい佐藤選手も約.5秒ほどタイムアップをしていた。フィーリングもよりよくなっていると話していた。他選手とのタイム差もつまりはしなかったが、てごたえはあるように思えた。
- 3本目、午後3:30 気温18℃ 湿度21% 路温30℃となっていた。金曜日、土曜日と、両日ともに天候もよく、コースもドライ続きであった。翌日のレースに向けて最後のセッションとなった。2本目のベストからタイムを落としていたが、いろいろと走行のさせ方を試していたようであった。多くの迷いあるように思っていた。
- 3月6日(日) 午前10:40 気温13℃ 湿度27% 路温22℃で予選はスタートとなった。前日より走行をチェックし新たなニュータイヤでのアタックであった。チームメイトの大類選手と同様、走行をまとめるのに苦労していたようだった。タイムは1'24'858となりベスト更新はできずに予選は終了となりポジションは17であった。ポールポジションタイムは1'21'907'cコースレコードを塗り替えるものとなった。
- 午後3:40 気温14℃ 湿度36% 路温18℃天候は予報通り雲が多くなってきた空の下での決勝のスタートだった。17番手からのポジションアップを思い描き、コースインをしていった。そしてタイヤ、ブレーキを温めながらグリッドに整列をし、フォーメーションラップスタートのグリーンフラッグが振られた。ギヤを1速に入れ、クラッチをつないだ瞬間、駆動がかからなかった。決勝直前でのドライブシャフトの折損という形での開幕戦終了となった。部品もあと30分持ちこたえてもらえればチェッカーを受けることができたと思います。スタッフとしてもとても悔しい結果となってしまいました。次回の第2戦にてリベンジをしたいと思っています。

中村監督コメント 次回は練習を重ね完走し表彰台にあがるよう努力いたします。
ご声援御願いたします。

 Nankai Plan Co., Ltd.



鈴木会計
埼玉・川口
<http://www.tcnf.com/sds>

P PLUS

Moty's
MPER LUBRICANT TECHNOLOGY

